



2022年度

FD活動報告

2022年度の活動を振り返って

FD推進委員長 久富 健治



2022年度のFD推進委員会は、通常の活動に加えて、全学的なFD活動の構築に取り組みました。

まず、「授業改善奨励制度」については、今年度より全開講科目を対象に変更して実施しました。表彰科目はいずれも、授業実践のベンチマークになるような素晴らしい内容であったと感じます。

また、全教員を対象として全学的な情報共有及び意思疎通を行い、大学全体で更なる教育の質向上を図ることを目的に実施している「教育改革講演会」では、今年度「大学DX」に関するテーマを設定し、先進的な取り組みが行われている大学から講師をお招きして実施しました。今後、本学が全学的・組織的にDXを進めていくうえで大変有益な示唆を得る機会となりました。

さらに、教職員の気軽な情報交換の場として「週末FD授業サロン」を開催し、毎回、学内外の講師を招いて意見交換を行いました。授業運営にまつわる個別具体的な取り組みや先生方のお悩みを拝聴でき、互いの授業改善に役立てることができたのではないのでしょうか。

毎回の委員会においては、FD推進委員に、所属学部・学科、部局等のFDの取り組み状況を報告・共有していただきました。各学部・学科、部局等の特性を踏まえた工夫やご苦労がしのばれ、それ自体が大学広報の素材になりえるような大変すばらしいものばかりでした。

以上の取り組みと前年度（2021年度）に行った各学科・学部におけるFD実態調査の内容を踏まえて、大学全体で組織的なFD活動を展開する仕組みづくりも行いました。次年度以降は、新しい武庫女教育の動向も踏まえつつ、さらに具体的な仕組みづくりと実践を行いたいと考えております。

週末FD授業サロン

今年度から新たなFD企画として、2ヶ月に一度、「週末FD授業サロン」を開催しました。テーマに応じて開催形式を変更したり、講師の方を招聘しながら開催しています。各回の詳細は、QRコードから当委員会のウェブサイトに掲載している実施報告をご覧ください。



第1回 2022.7.15 Fri.
実践学習（PBL）の始め方



第2回 2022.9.16 Fri.
多様な授業形態における
学生との双方向的なコミュニケーションの取り方



第3回 2022.11.18 Fri.
授業における著作権



第4回 2023.1.19 Thu.
多様な状況の学生に対する合理的配慮の状況について



令和4年度 教育改革講演会

大学におけるDXの取り組み

昨今、DX（デジタル・トランスフォーメーション）による改革が政府、自治体、多くの企業で求められているが、大学におけるDXの目的は、企業等の獲利目的の組織とは異なり、「教育・研究の質の向上にある。組織体で行って必要なスキルを身に付けることは異なる「IT化」に過ぎず、教育の効率化は図れない。教員が教育・研究に専念できるようにすることが、また学生の成長を促すには不可欠か、従来の大学の運営や業務の方法を変えていくためには、システムを替えるのではなく、自分たちで考えを巡らせる必要がある。DXマインドと技術の両方を含む取り組みをどのように進めていくべきか、東洋大学における試行錯誤の状況を紹介する。

新山 文洋 氏
(東洋大学 学長室学長事務課 課長)

2002年東洋大学入職。図書館事務部図書館事務課、文学部教務課を経て、公益財団法人大学基準協会専門職員（出向）。現在は、東洋大学学長室学長事務課とともに大学評価支援室、青年教育推進支援室、情報システム部情報企画課を兼務。

日時: 8月19日(金) 13:30 - 14:30
対象: 全教職員 (参加申込不要 / 参加費無料)
開催方法: Zoom ウェビナー
Zoom ID / パスワード: info@MUSES をご確認ください

参加方法
◆今回は講演会の開催テーマに即ち、Zoomウェビナーのみでの実施となります。
◆オンラインでの参加は、info@mus-u.ac.jpのメールアドレスに新しいメールからZoomにご参加ください。メールが必要な場合は、上記ID・パスワードを入力の上、ご参加ください。
◆当日の参加が難しい場合は、後日オンデマンド配信を行いますのでご観覧ください。
◆詳細はinfo@MUSESにてお問い合わせください。
◆本講演会は、全学的FDの取り組みとして助教以上の教員（専任・嘱託）については、参加記録をらせていただきます。

【主催】 東洋大学学長室 東洋大学学長事務課 情報推進委員会
【共催】 東洋大学学長室 東洋大学学長事務課 東洋大学学長事務課 東洋大学学長事務課
【お問い合わせ】 東洋大学学長室 情報推進委員会 (TEL: 0412-341-1111 / MAIL: info@mus-u.ac.jp)

2022年度教育改革講演会 大学におけるDXの取り組み

8月19日（金）、Zoomウェビナー方式による2022年度教育改革講演会が開催され、教職員約400名が参加しました。

今年度の講演では、東洋大学 学長室学長事務課長の新山文洋氏を講師に迎え、「大学におけるDXの取り組み」をテーマに東洋大学における取り組み事例の紹介を中心とする講演が行われました。事後アンケートの結果から、約95%の参加者が講演内容に対して高い満足度を示すとともに、本学における教育及び業務改善につなげていくことの重要性が再確認されました。

活動報告

ICT教材を活用した対面及びハイブリッド授業の構築に関するFD研究会

生活環境学部 生活環境学科 准教授 末弘 由佳理 / 教育学部 教育学科 准教授 吉井 美奈子

私たちは、被服製作教育において、コロナ禍以前より、ICT教材を活用しています。基礎縫いの動画教材※を作成したのは2013年ですが、当時は本学のLMS (μCam) にアップロードしていました。LMS (μCam) の運用停止の同時期辺りから、世間的にYouTubeの利用が加速し、教材をYouTubeにアップロードすることが増えてきました。IDやパスワード等がなく手軽に視聴できるYouTubeは学生にとっても利便性が高いようで、LMS (μCam) の教材よりも、YouTubeにアップロードされた動画を好んで視聴する時代となった印象でした。このような背景から、基礎縫いの動画教材※についても2019年にYouTubeにアップロードし、現在に至ります。当初は、視聴のし易さや動画の容量の観点からYouTubeのメリットだと認識していましたが、YouTubeにはアナリティクスが標準装備されており、教材の作り手側にとっても分析ツールとして有効であることが、利用している中で分かってきました。

現在は、そのアナリティクスを使って、それぞれの教材の「山（視聴者が繰り返し見た瞬間/動画をスキップして飛んできた瞬間）」を知ることで、児童・生徒・学生が（その学習）の理解に時間を要する場面を抽出することができると考えています。もちろん、動画の修正にも生かすことができ、よりよい教材を作成し、学習環境を構築する上で、これらの分析が有効であると考え、分析を進めているところです。

※武庫川女子大学家庭科教材, https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kateika/kisonui_c_r.html



「FD研究会」について

FD推進委員会の下部組織として、学科の枠を超えた有志で集まる「授業改善のためのFD研究会（FD研究会）」を開設しています。この制度は、授業内容や方法、評価をはじめとするFDに係る様々なテーマで研究会活動を行い、その成果を学内に還元することでより効果的なFD活動を大学全体として展開することを目指すものです。2023年度についても募集を行います。募集時期等については、改めてFD研究会のHP (<https://seds.mukogawa-u.ac.jp/studygroup/index.html>) にて案内しますので、ご確認ください。

参加報告

「能動的学修の教員研修リーダー講座」で何を得たか

言語文化研究所 助教 岸本 千秋

講座への参加許可をいただき、3日間の研修を受講しました。研修は、①テキストの「理解促進テスト」、②担当授業における「学びの技法・体験学修」についての説明、③担当授業での「能動的学修」や「体験学習」の必要性の説明という3つの事前課題に取り組むことから始まります。

今回、筆者が参加を希望した大きな理由には「能動的学修を体系的に学んでいない」といったものがあります。言い換えれば、授業で取り入れてはいるがこれでよいのだろうかという漠然とした不安です。この不安は、①「理解促進テスト」のためにテキストを読み込むこと、②と③を研修グループのメンバーに説明し意見交換をすることで大きく軽減しました。

また、筆者のグループは、観光・芸術・文化人類学・社会言語学を専門とする4人で（つまりバラバラ）、メンバーから多様な実践例を聞くうちに、もっと自由な発想でもよいのだと目を開かれる思いをしました。「コロナ禍での学修」というテーマが設定されたペアインタビューでは、失敗談も交えながら自己を客観的な視点から語り、相手の話を理解しようと努めます。シラバス15回分の作成を行い、最終日にはグループ代表として模擬授業を行いました。その場で、研修の先生方や参加者から有意義なコメントをいただいたことも大きな収穫です。

これらを通して、能動的学修についての理解を（学生の視点からも）深めることができました。理論と実践を繰り返した3日間を今後の授業改善につなげられるよう努力を続けていきたいと考えています。



「能動的学修の教員研修リーダー講座」への参加者募集について

毎年、一般財団法人全国大学実務教育協会主催「能動的学修（アクティブ・ラーニング）の教員研修リーダー講座」への参加者を1名募集しています。学生の理解を高めるためにアクティブ・ラーニングを効果的に活用したいとお考えで、研修講座に関心をお持ちの方は4月28日（金）までに教育開発推進室*へお申込みください。詳細は info@MUSES で案内しています。（対象は本学の専任・嘱託教員となります。）

*4月1日より部署名が「学長企画室」に変更となります。

2022年度 授業改善奨励制度

大学として更なる教育の質向上を図るため「より良い授業のための工夫と実践」に対する奨励を実施しました。今年度より、全開講科目に対象を拡大して募集を行い、前期5名、後期3名の教員が瀬口学長より表彰を受けました。

前期表彰科目と実践内容（一部抜粋）

スポーツ心理学（健康・スポーツ科学科：松本 裕史）

予習レポートとGoogleフォームでの授業の振り返りを用いたオンデマンド授業。オンデマンド動画の中に、学生の振り返りコメントを用いた前回授業の復習および提出された予習レポートの紹介による動機づけを導入し、双方向授業を展開した。

書道Ⅰ（日本語日本文学科：平田 光彦）

1.丁寧でわかりやすい個別指導と学習資料による学習者支援／2.伸び伸びとリラックスしながら集中できる学修空間と集団による学習効果の確保／3.毎時間の要点の段階的な設定と明示、学習者の自己評価を組み合わせた知識・技能習得の円滑化／4.学習者のforms回答を活用した授業方法の開発と確認／5.教職志望者に向けての指導要点と指導方法の意識化／6.学科の各領域との関連等。

企業の社会連携論（経営学科：谷口 浩二）

Prezi videoを使用することにより、Zoom授業の短所（講義者の表情がよくわからないなど）を大幅に改善し、スライドなどにも動きをつけるとともに、学生の授業集中力が継続するよう授業を分割するなどの工夫を施した。

セクシュアリティ入門Ⅰ／セクシュアリティ入門Ⅱ（教育研究所：中尾 賀要子）

オンデマンド型授業の匿名性を活かすことで、性という禁忌性の高いテーマにおける主体的かつ対話的な学びの実現を目指している。受講生は具体的な経験に関連させながら、授業を通して考えたことや疑問に思ったことを毎週リアクションペーパーにまとめ、共有の可否をその都度判断して提出する。共有可の中から選ばれたものは匿名で読み上げられ、それに対するクラスメートからのフィードバックも同様の手続きで共有されることで、積み上げ循環型の交流が行われている。また動画1本あたりを15分程度にしたり、Googleサイトに参考資料を集約するなどの工夫を施している。

国際協力入門（英語文化学科：加藤 丈太郎）

受講生100名に毎週400字以上のレポートを講義後に提出させ、その全てに毎週フィードバックのコメントをつけて返却し、オンデマンド授業でも双方向性を確保するよう努めた。毎回レポートを書き続けることで、受講生が①授業内容を振り返る中から知識を定着させ、②国際協力を自らの日常生活に引き付けて考え、③レポートの書き方の基礎を習得することを目指した。また、授業改善ミニアンケート（中間）を実施し、それを踏まえた改善も実践した。

後期表彰科目と実践内容（一部抜粋）

ドラフティングCAD実習Ⅱ（生活環境学科：末弘 由佳理）

アパレルCADソフトを用いて衣服の作図をするコンピュータ実習の実践である。コロナ禍前は対面形式で、教員が操作するパソコン画面を大型スクリーンに投影して、一斉説明をする方法をとっていたが、今回は説明を事前収録して、その動画をオンデマンド教材として予習を目的に事前配信し、授業時間内に対面形式の中で各自が課題に取り組む方法を実施した。

算数科内容論（教育学科：神原 一之）

学生たちの学びを対象とした科研費による研究結果から、教科としての算数の数学的背景の知識と共に豊かな数学的活動を体験させることが重要と明らかになった。限られた15回の授業でこの2つを両立させるため、遠隔・対面併用型授業を計画し実施した。コロナ禍対応の一環としてクラスを分割し、学修のフィードバックと数学的活動を体験する対面授業45分と理論的学修を行うオンデマンド授業45分の二部構成として授業を実践した。

食事調査法演習（オムニバス形式・写真撮影法担当）（食物栄養学科：脇本 景子）

栄養計算の演習を主内容とする授業において、デバイスを持参できない学生がいること、また、課題の説明理解には演習を行いながら何度も確認する必要があるが、進捗により情報が必要になるタイミングが学生ごとに異なるという課題があった。これを解決するためのオンデマンド型講義と対面型講義を組み合わせた授業実践。Googleクラスルームを用いて講義と課題を提示し、実際の講義時間には対面教室にて質問会（2回）を開催し、双方向型コミュニケーションの機会を確保した（Meetでの参加も可）。また、授業成果の発表会は、Googleクラスルームのストリーム上に成果物を提出することとし、クラス全員が他の学生の成果物を見て、自己評価、他者評価ができるような工夫を行った。



2022年度FD推進委員一覧

役職	所属	氏名	役職	所属	氏名
1 委員長・委員	健康	久富 健治	8 委員	情報	井上 重信
2 副委員長・委員	共通	長谷川 裕紀	9 委員	食物	大平 耕司
3 委員	日文	三品 理絵	10 委員	建築	田崎 祐生
4 委員	英文	辻 和成	11 委員	音楽	松園 洋二
5 委員	心福	佐藤 安子	12 委員	薬学	川崎 郁勇
6 委員	教育	高木 史人	13 委員	看護	金谷 志子
7 委員	環境	佐々 尚美	14 委員	経営	鈴木 基史
			15 委員	教務部(食創)	蓬田 健太郎
			16 委員	教務部(食創)	大西 賢弥
			17 委員	国際	藤田 翔子
			18 委員	情報システム課	東 條 弘
			19 委員	教育開発・IR推進課	田中 邦子
			20 委員	教育開発・IR推進課	岩本 直子
			21 委員	教育開発・IR推進課	前田 淳宏